

平成23年度「東日本大震災からの復旧・復興を担う専門人材育成支援事業」実績報告書

1. 事業の概要

(1)事業名(全角30字以内)

訪問美容・介護を柱に被災地の美容施設を再建する人材の育成

(2)メニュー・分野

メニュー		分野
	1-① 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等【短期】	
○	1-② 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等【中長期】	⑩その他
	2 被災地においてニーズが高く供給が不足する分野の教育支援	
	3 専修学校等の就職支援体制の充実強化	—

「その他」分野名

美容

(4)事業実施期間

契約日～平成24年3月31日

(5)事業の概要

【中長期人材育成コースの試行導入(中長期)】

東北3県では、元々訪問サービスの需要が大きいところに東日本大震災が起こったことで、美容・介護等の生活支援サービスの提供側・享受側が共に流動的な状況にあり、訪問美容・訪問介護等に対するニーズが大きい。本事業の目的は、被災した美容院等の再開・再建を担い、訪問サービスを柱として再開後に地元で定着して働ける美容人材の育成プログラムを開発することである。

プログラムは、訪問美容・介護等の生活支援サービスの知識・スキルや、顧客関係管理・マーケティング・起業など事業の運営・経営の知識・スキルを身につけるための学習機会を構成した(200時間強)。

このプログラムは、SNS(Social Networking Service)やeラーニング、eポートフォリオなどのシステムの構築により、被災地(主に、福島県)から避難したり、仮設住宅で暮らす美容師等でも受講できるように、また、復旧から復興までの中長期にわたって受講者を支援できるように配慮した開発を進めた。

開発したプログラムは、その中核部分を取り出して実証講座とし、福島県に居住している(していた)美容師、被災地の支援を志向する美容師や美容専門学校生を対象とした実証講座を実施して、その効果を確認した。

2. 文部科学省との連絡担当者

省略

3. 事業内容の説明

(1) 事業の内容について(推進協議会における具体的な取組内容)

① 調査

本事業の目的は、東日本大震災によって被災した美容院等の再開・再建を担い、再開後に地元で定着して働ける美容人材の育成プログラムを開発することにある。本事業ではこのとき、被災地の高齢化・被災者の流動化に対応できる訪問美容、訪問介護サービスの提供が不可欠であると考えた。高齢化が進んだ地域はすでに全国に広がっており、また、高齢化に伴う医療費の抑制政策によって在宅介護も広がっている。したがって、訪問美容・訪問介護に対するニーズはすでに10年以上前から高まっており、これに対応したさまざまな取組みがなされてきた。そこで、本事業では、これらの取組みの典型的な例について調査し、本事業の教育プログラムの開発に役立てることにした。

①-1 訪問美容・介護に関する資格制度

図表1に掲げる13の資格制度を対象とし、認定主体、制度の内容、研修講座等の情報を入手・整理した。その結果を分析してわかったことは次のとおりである。

- 美容と介護・福祉の複合的な人材像を描いている
- 多種多様である
- 通信教育+集合研修の形をとるものが多い
- 通信教育に2~3か月の期間をとり、集合研修は2~3日というケースが標準的。2~3か月と言っても正味はそれほど多くなく、総学習時間はいずれも100時間に遠く及ばない
- ビジネス、経営などの分野との複合を考えたものはない

研修や教材内容には参考になる点も多々あったが、期間としては不足感があり、eラーニングなどの活用により、短期でも充実したカリキュラム開発の可能性が感じられる。また、本事業の目的に照らせば、ビジネス・経営スキルを付加する要素は不可欠であると考えさせられる結果となった。

①-2 訪問マナー・コミュニケーションに関する研修事例

在宅医療の拡大により、訪問看護や訪問介護を行うスタッフに対する研修事例はある程度見つかるので、8つの研修事例と10の書籍事例について調査した。その結果としては、訪問マナー・コミュニケーションの内容について介護、看護といった分野の間に差は見られなかった。その意味では、調査した結果は訪問美容でも比較的そのまま活用できると考えられる。なお、調査対象となったものは震災と独立に存在するものであり、その点は本事業で開発する教育プログラムの中でも考慮すべきポイントになると考えられた。

② プログラム開発

すでに美容スキルをもった美容師を前提にした場合、被災地において訪問美容・介護サービスを提供できる人材となるためには、図表2に示したような三つの付加価値バリエーションを身につける必要があると考えた。

ア 美容(整容)スキル

これは「美容」に関する付加価値バリエーションである。すなわち、訪問美容における訪問先は介護施設や在宅介護者が中心になる。また、被災地の場合は仮設住宅等の避難先も考えられる。いずれの場合も、高齢者や障害者が多く、美容施術の領域としては、身だしなみを整える、身ざれいにするなど、「整容」と呼ばれる領域のスキルが必要になってくる。

イ 訪問・ビジネススキル

これは「空間」に関する付加価値バリエーションである。すなわち、客がサロンに来るのではなく、客を訪問することに伴って必要なスキルである。訪問先は施設の場合もあれば通常の居宅もある。どのような道具が必要になるか、電源や給水・排水は大丈夫かなど、物理的に解決しなければならない問題は山積みである。また、特に、被災地においては避難先や仮設住宅など「まとまった」客が見込めるマーケットがたくさんある。このようなマーケットをいかに開拓して、そこにいかに効率的なサービスを展開できるかが、ビジネスとしての成功/失敗の分岐点でもある。このように考えれば、こと被災地においては訪問スキルとビジネススキルは一体化したものと考えられる部分もある。

ウ 介護スキル

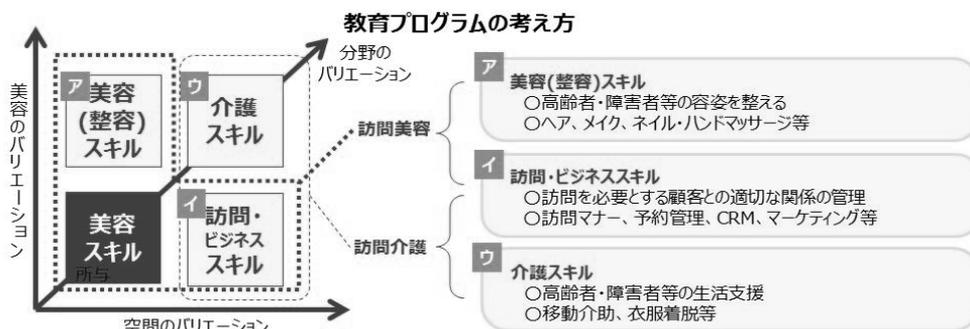
これは「分野」に関する付加価値バリエーションである。すなわち、訪問先の客は高齢者・障害者など、介護や介助を必要としているケースが多く、そういったスキルが身につけていないと、美容(整容)サービスも提供しにくい。

以上の考え方をベースに、本事業では、ア~ウを頂点とするプログラム体系を開発した。

図表1 調査対象とした資格制度等

	名称	主催
1	ハートフル美容師	全日本美容業生活衛生同業組合 社団法人シルバースervice振興会
2	整容介護コーディネーター	財団法人 職業技能振興会
3	美容福祉師	一般社団法人 日本美容福祉学会
4	訪問美容師	NPO法人 全日本訪問美容師協会
5	居宅訪問美容師	NPO法人 全国福祉美容師養成協会
6	福祉美容師	NPO法人 全国福祉美容師養成協会
7	福祉美容士	NPO法人 日本美容福祉協会
8	福祉美容師	NPO法人 全国介護美容福祉協会
9	理美容福祉専門士	社団法人 ジミー国際美容福祉アカデミー
10	理美容福祉師	NPO法人 日本福祉ネットワーク協会
11	ケア美容師	全国美容生活衛生同業組合連合会 社団法人シルバースervice振興会
12	認定福祉美容介護師 認定福祉美容介護師	NPO法人 医療福祉情報実務能力協会
13	認定福祉美容介護助師	NPO法人 医療福祉情報実務能力協会

図表2 プログラム開発の考え方



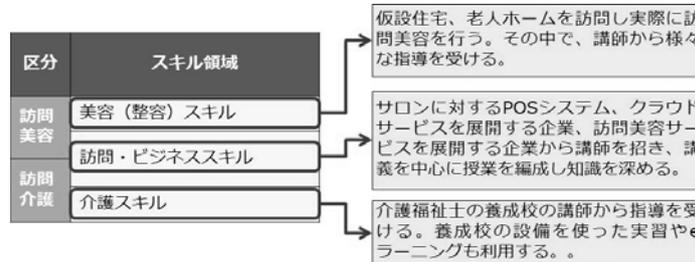
(3) 実証講座の実施

開発した教育プログラムは、すべてを実施するのに200時間余りを要することから、この中から中核的な部分を取り出して実証講座とすることにした。図表3は講座を編成する考え方を示したものである。

現役の美容師を対象とするため、美容院の休日に合わせて4週間の期間を確保し、休日ごとに集合学習を、その合間を縫ってeラーニング等の方法による自主学習を行うことで、合わせて75時間を確保し、各スキル領域の基本的な部分及び実践的な要素を網羅する講座とした。

集合学習の初日(2月27日)は講義のみであったが、2日目(3月5日)は仮設住宅で、3日目(3月12日)は特別養護老人ホームで、それぞれ希望者に対するカット・シャンプー等のサービス提供を通じて実践的な知識・技術の習得に努めた。また、最終日(3月26日)も斬新な経営手法を採り入れたことで著名な美容師を招いた特別講演を実施し、講義とカット実習を行った。最終的に郡山周辺の13名の美容師が集まり、受講内容に対する非常に高い評価を受ける結果となった。

図表3 実証講座の考え方



(2) 教育プログラム・教材の開発内容等

教育プログラムの考え方にに基づき、美容(整容)、訪問・ビジネス、介護、それぞれのスキル領域について、図表4に示すとおり科目化した。

図表4 教育プログラム⇒科目化

区分	スキル領域	科目	講義	実習
訪問美容	美容(整容)スキル	訪問美容概論	30	
		訪問美容実習		30
	訪問・ビジネススキル	顧客関係管理	15	15
		マーケティング	15	
訪問介護	訪問・ビジネススキル	起業	15	
		マナー・コミュニケーション	15	15
	介護スキル	介護知識の基本	30	
		介護技術の基本		30
合計			120	90

各科目の概要は次のとおりである。

■美容(整容)スキル

□訪問美容概論

訪問美容において必要となる美容(整容)技術・知識を習得する。また、訪問に固有の直接的な技術だけでなく、その背景となる事項についても概論的な知識を身につけ、知識の発展の礎を築く。

□訪問美容実習

訪問美容概論で学習した知識について、実習を通じて技術としての定着を図る。まず、サロンにて個別の技術習得を行う。次に、実際の施設・居宅を訪問して実践力を養う。

■訪問・ビジネススキル

□顧客関係管理

CRM(Customer Relationship Management:顧客関係管理)の考え方を理解し、顧客中心志向のマインドを養う。同時に、典型的なCRMアプリケーションシステムの操作実習を通じて実践力を養う。

□マーケティング

美容市場においてマーケティングが果たす役割とその意義を理解するために、マーケティングに関する体系的な知識と技術を学習する。

□起業

起業と会社の維持に関する知識を学習する。起業はどのような流れで行うのか、そこで必要になるものは何かについてまず学習する。次に、起業後の会社が行うべきルーチンワークについて学習し、最後に美容室の起業・維持に関わる事項を学習する。

□マナー・コミュニケーション

訪問時に必要なマナー・コミュニケーション能力について、理論的な背景や知識を身につけると同時に、実習を通じて実践力を身につける。

■介護スキル

□介護知識の基本

介護に関する考え方、法令などの諸制度、施設介護の実態、居宅介護の実態、ケアマネージャ・介護福祉士・ホームヘルパーなどの職種の知識などを身につける。

□介護技術の基本

前半は学校内の設備等も活用して、介護の要素技術の一つずつ学習し、知識・技術の定着を図る。後半は施設・居宅における介護技術実習を行って実践的な力を身につける。

(3)実証講座等の内容

実証講座は、美容(整容)スキル、訪問・ビジネススキル、介護スキルをバランスよく身につけられるように、構築したカリキュラムを押さえるように、また、現役の美容師として参加しやすいようにとの考え方から、図表5のような形で具体化を図った。期間約1か月、集合学習と自主学習を合わせて75.0時間にのぼる比較的大きな規模で実施した。

図表5 実証講座の内容

日程	美容(整容)スキル	訪問・ビジネススキル	介護スキル
1日目 2/27		タカラベルモント社関係者により POS システム中心講義 1.5	郡山健康科学専門学校講師により介護知識の基本を講義 1.5
2日目 3/5	訪問美容サービス髪や講師の指導の下で仮設住宅実習 3.0		郡山健康科学専門学校講師により介護技術の基本を講義 1.5
2日～ 3日目の 中間		高齢者の特性に配慮したマナー・コミュニケーションをテキスト学習 15.0	移動介助、衣服の着脱に関する技術をeラーニングで学習 6.0
3日目 3/12	訪問美容サービス髪や講師の指導の下で老人ホーム実習 3.0		
3日～ 4日目の 中間	高齢者の身だしなみ、整容などについてテキスト学習 15.0	FiberZoom 代表の著書をeラーニングで学習 9.0	高齢者の心理・疾病・特性などについてテキスト学習 15.0
4日目 3/26	FiberZoom 社の講師による美容(整容)実習 3.0	郡山健康科学専門学校講師によりコミュニケーションを学習 1.5	
時間数	24.0	27.0	24.0

(4)事業実績について(地域の人材ニーズに対しての具体的な事業成果)

①開設した講座の内容・構成

実証講座の内容・構成は次のとおりである。

■1日目(平成24年2月27日)

□開講式

□13:30～15:00 らしさ、SALON POS LinQについて(訪問・ビジネススキル)

□15:15～16:45 介護知識の基本(介護スキル)

■2日目(平成24年3月5日)

□10:30～12:00 介護技術の基本(介護スキル)

□13:00～16:00 訪問美容の技術(美容スキル、訪問・ビジネススキル)

エムロード(移動理美容自動車)で稲川原応急仮設住宅にて訪問美容実習。

■2～3日目(平成24年3月5日～3月12日)

□高齢者の特性に配慮したマナー・コミュニケーションをテキスト学習(訪問・ビジネススキル)

□移動介助、衣服の着脱に関する技術をeラーニングで学習(介護スキル)

■3日目(平成24年3月12日)

□13:00～16:00 施設訪問実習・見学(訪問・ビジネススキル、美容スキル、介護スキル)

郡山市内の「特別養護老人ホーム うねめの里」にて訪問美容実習。

■3～4日目(平成24年3月12日～3月26日)

□高齢者の身だしなみ、整容などについてテキスト学習(美容スキル)

□高齢者の心理・疾病・特性などについてテキスト学習(介護スキル)

□FiberZoom代表の著書をeラーニングで学習(訪問・ビジネススキル)

■4日目(平成24年3月26日)

□10:30～12:00 介護知識(介護スキル)

□13:00～16:00 被災地支援特別講演(美容スキル、訪問・ビジネススキル)

FiberZoom井上代表による講演・美容実習

②募集人員の規模

定員として20名を設定して受講者を募集した。途中から参加されることも認めた結果、最終的に13名の美容師(うち、2名は理容師)が参加した。

③講座数

実施した講座は、2月27日～3月26日の1回である。

④対象地域

福島県全体を対象地域として設定した。13名のうち11名が郡山市在住(うち1名は富岡町からの避難者)、2名が福島市在住であった。

⑤開設時期

平成24年2月27日から3月26日まで。

⑥主な対象者

現役の美容師(理容師も可)を対象とした。13名のうち、男性が3名、女性が10名であった。

⑦実証講座に対する評価

単元ごとにとつにアンケートの結果、100%の割合で「役立つ」または「どちらかといえば役立つ」と回答した。また、96%の割合で「理解できた」または「どちらかといえば理解できた」と回答した。さらに、85%の割合で「震災復興の意義を感じる」または「どちらかといえば感じる」と回答した。

アンケートと別に実施した介護知識の確認テストの結果、当初から受講した3名の得点率がいずれも80%で、他の受講者の得点率を上回った。

以上のことから、実証講座は本事業の趣旨・目的を達成したものであったといえる。

図表6 訪問美容車(2日目)



図表7 特養ホームでの美容実習(3日目)



(5)成果の普及・平成24年度以降の事業展開(自校・他校・企業・団体・地域との関係)

■成果の普及方策として実施したこと、または、実施を予定していること

□ポータルサイト・SNSの開設と継続

本事業のポータルサイトやSNSを事業当初から開設して、事業の経過や結果を公開することによって成果の普及を図った。これらは事業終了後も一定の期間継続して開設する。

□事業報告書の作成と配布と公開

事業報告書を作成して印刷・配布すると共に、ポータルサイト上に公開する予定である。

□成果発表会の実施

平成24年3月26日に郡山市で成果発表会を実施した。成果発表の内容はポータルサイトやSNSに公開する予定である。

■平成24年度以降の事業展開の予定

□ポータルサイト・SNS・eポートフォリオシステムの継続

これらのシステムは自力での継続を可能な仕組みとして構築したので、事業終了後も、訪問美容や訪問介護に携わる美容師、その他関係者が交流を継続できるようにする。

□事業発展のための各方面への働きかけ

事業内容をさらに発展させるために、国、地方自治体、業界団体に対する働きかけを行っていきたい。本事業はテレビのニュースでも取り上げられる(平成24年3月13日JNN系お昼のニュース)など、実証講座の途中から大きな反響を呼んだ。この流れを継続し、さらに進めることにより、福島県美容業界の発展に寄与できるよう努力したい。

□24年度事業に申請

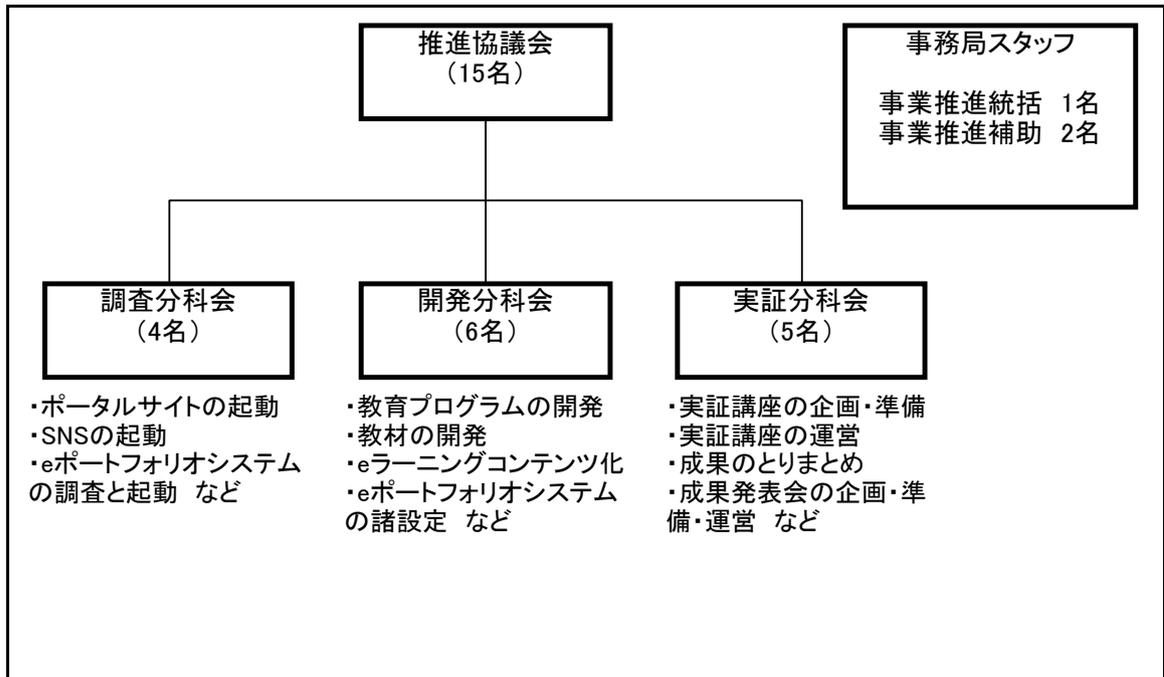
文部科学省東日本大震災からの復旧・復興支援を担う専門人材育成支援事業に申請し、本事業の更なる発

学校法人三橋学園・船橋情報ビジネス専門学校	校長 鳥居高之	開発分科会	千葉
学校法人敬心学園	法人本部 岸本光正	実証分科会	東京
日経教育グループ	広報課 島袋菜々子	実証分科会	沖縄
株式会社ファイバースーム	井上和英	開発分科会	兵庫
タカラベルモント株式会社	宮田輝朗	開発分科会	大阪
サロンニュースマガジン	蔭地茂規	調査分科会	大阪
NTTPCコミュニケーション	五十嵐孝司	開発分科会	東京
スクールドットコム	常陸弘	調査分科会	東京

(3)事業実施協力専修学校・企業・団体等

組織名	代表者	役割等	都道府県
株式会社ファイバースーム	井上和英	講座開発	兵庫
タカラベルモント株式会社	宮田輝朗	講座開発	大阪
サロンニュースマガジン	蔭地茂規	調査実施	大阪
NTTPCコミュニケーション	五十嵐孝司	講座開発	東京
スクールドットコム	常陸弘	調査実施	東京

(4)事業の推進体制(図示)



- ①自動車組み込み系
- ②家電組み込み系
- ③医療情報事務
- ④クラウド等IT
- ⑤放射線工学
- ⑥再生可能エネルギー
- ⑦食・農業
- ⑧スマートグリッド
- ⑨観光
- ⑩その他

①介護

①介護

①介護

①介護

②その他(医療事務、電気・土木・建築等)

①合同就職セミナーの開催

③その他

1. 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等(短期)
1. 産業界の高度化等において必要な専門人材育成のための人材育成コース試行導入等(中長期)
2. 被災地においてニーズが高く供給が不足する分野の教育支援
3. 専修学校等の就職支援体制の充実強化